非結球あぶらな科葉菜類

農薬取締法上、「なばな類」は「非結球あぶらな科葉菜類」に含まれる。ただし、「かぶ」、「だいこん」等は葉を食用にする場合でも「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれず、「根菜類」に含まれる。「ブロッコリー」「カリフラワー」等は「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれず、「はなやさい類」に含まれる。
この項目では「非結球あぶらな科葉菜類」の作物群に対する登録内容のみを記載している。個別作物に対する登録内容については当該作物のページを参照すること。

白斑病

留意事項

1 気温が低く、湿潤な条件が続く時期に発生しやすい。

防除方法

1 排水を良好にする。
2 密植を避け、通風をよくする。
3 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ベンレート水和剤 ＜１＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ、みずな） 4000倍 21日／1回】

白さび病

留意事項

1 QoI剤≪１１≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 収穫後の作物残さは適切に処分する。
2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
3 ほ場の排水をよくする。
4 密植を避け、通風をよくする。
5 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
6 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。

・ランマンフロアブル ＜２１＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類） 2000倍 3日／3回】
・ライメイフロアブル ＜２１＞【2000～4000倍 3日／3回】

7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・アミスター20フロアブル　≪１１≫
【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、チンゲンサイ、タアサイ、みずな）
2000倍　7日／2回】
・ピシロックフロアブル　＜Ｕ１７＞【1000倍　前日／3回】

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

1 降雨が多く、気温が高い時期に発生が多い。
2 進展がきわめて速いため、発生初期の抜き取りが重要である。
3 QoI剤≪１１≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 わら、またはポリフィルムなどでマルチングする。
2 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スクレアフロアブル　≪１１≫【2000倍　前日／3回】
・ベンレート水和剤　＜１＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ、みずな）　4000倍　21日／1回】

根こぶ病

留意事項

1 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
2 排水を良好にする。
3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（ＸⅢ土壌消毒　参照）

・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤　劇　＜－＞
【非結球あぶらな科葉菜類(非結球メキャベツ、こまつな、非結球はくさい、
なばな類、チンゲンサイ、みずなを除く）　30kg／10a
所定量を均一に散布して土壌と混和する　は種14日前／1回】

5 は種前または定植前に下記の薬剤を施用する。

・ネビジン粉剤　＜３６＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類）　20～30kg／10a　全面土壌混和
は種または定植前／1回】または
【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類）　20kg／10a　作条土壌混和
は種または定植前／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・オラクル顆粒水和剤　＜２１＞

【200～300g／10a　希釈水量100L／10a　全面散布後土壌混和
は種前または定植前／2回】

【200～500倍　500ml／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、
使用土壌約3～4L)　かん注　定植前／1回】

・フロンサイド粉剤　＜２９＞

【非結球あぶらな科葉菜類(除ケール、こまつな、みずな、のざわな、なばな類)
30～40kg／10a　全面土壌混和　は種または定植前／1回】

6 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

アブラムシ類

留意事項

1 ウイルス病を媒介する。

2 少雨のときに多発しやすい。

防除方法

1　べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2　は種時に下記の薬剤を施用する。

・モスピラン粒剤　＜４Ａ＞

【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ）　3kg／10a　まき溝土壌混和
は種時／1回】

・スタークル粒剤、アルバリン粒剤　＜４Ａ＞

【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ）　6kg／10a　まき溝土壌混和
は種時／1回】

3　発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ウララDF　＜２９＞【4000倍　前日／2回】

・トランスフォームフロアブル　＜４Ｃ＞【2000倍　前日／3回】

・ベリマークSC　＜２８＞【4000倍　株元かん注　7日／1回】

・オルトラン水和剤　＜１Ｂ＞

【非結球あぶらな科葉菜類(除ケール、からしな、ルッコラ、四川搾菜(茎葉)、
畑わさび、畑わさび(葉))　1500倍　21日／1回】

コナガ

留意事項

1 葉裏に網のような繭をつくって蛹になる。

2 春～初夏、秋の発生が多い。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 は種時に下記の薬剤を使用する。
・モスピラン粒剤 ＜４Ａ＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ）　3kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アファーム乳剤 ＜６＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな）　1000～2000倍　7日／3回】
・マッチ乳剤 ＜１５＞【2000倍　3日／3回】
・プレオフロアブル ＜ＵＮ＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、なばな類）　1000倍　7日／2回】
・ディアナSC ＜５＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、チンゲンサイ、なばな類）　2500～5000倍　前日／2回】
・ヨーバルフロアブル ＜２８＞【5000倍　前日／2回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ハイマダラノメイガ

留意事項

1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スピノエース顆粒水和剤 ＜５＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除みずな、非結球はくさい）　2500～5000倍　14日／2回】
・アファーム乳剤 ＜６＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな）　1000～2000倍　7日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ネキリムシ類

留意事項

1 根の株元をかみ切り、株はそこから折れて枯死する。

防除方法

1 ほ場の中および周辺の除草を徹底する。
2 は種前～定植時に下記の薬剤を施用する。

・フォース粒剤 劇 ＜３Ａ＞
【非結球あぶらな科葉菜類(除からしな)　4kg／10a　全面土壌混和　は種前／1回】

・ダイアジノン粒剤5 ＜１Ｂ＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、ケール、ひろしまな）
6kg／10a　全面土壌混和　は種時または定植時／1回】

ヨトウムシ類

留意事項

1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アファーム乳剤 ＜６＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな）
ヨトウムシ・ハスモンヨトウ　1000～2000倍　7日／3回】

・ディアナSC ＜５＞
【非結球あぶらな科葉菜類(除こまつな、チンゲンサイ、なばな類)　ハスモンヨトウ
2500～5000倍　前日／2回】

・プレオフロアブル ＜ＵＮ＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、なばな類）　ハスモンヨトウ
1000倍　7日／2回】

・アクセルフロアブル ＜２２Ｂ＞【ハスモンヨトウ　2000倍　前日／3回】

・スカウトフロアブル 劇 ＜３Ａ＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ）　ヨトウムシ　2000倍　7日／2回】

・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

アオムシ

留意事項

1 幼虫による被害は春と秋に多い。

2 若齢幼虫の防除に重点を置く。

3 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。

・マッチ乳剤 ＜１５＞【2000倍　3日／3回】

・アファーム乳剤 ＜６＞

【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつな）
1000～2000倍　7日／3回】

・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞

【非結球あぶらな科葉菜類(除こまつな、非結球はくさい、みずな、なばな類)
2000倍　前日／3回】

・ベリマークSC ＜２８＞【4000倍　株元かん注　7日／1回】

・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

キスジノミハムシ

留意事項

1 高温乾燥が続くと発生が多くなる。

防除方法

1 シルバーマルチを利用する。

2 は種前～は種時に下記の薬剤を施用する。

・フォース粒剤 劇 ＜３Ａ＞

【非結球あぶらな科葉菜類（除からしな）　4kg／10a　全面土壌混和　は種前／1回】

・ダイアジノン粒剤5 ＜１Ｂ＞

【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、ケール、ひろしまな）
6kg／10a　全面土壌混和　は種時／1回】

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アクセルフロアブル ＜２２Ｂ＞【1000倍　前日／3回】

・アニキ乳剤 ＜６＞【1000～2000倍　前日／3回】

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞

【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ、畑わさび）　2000倍　3日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハモグリバエ類

防除方法

1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アニキ乳剤 ＜６＞【1000～2000倍　前日／3回】

・スピノエース顆粒水和剤 ＜５＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除みずな、非結球はくさい）　2500～5000倍
14日／2回】

・カスケード乳剤 ＜１５＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除なばな類）　マメハモグリバエ　2000倍　7日／2回】

ケラ

防除方法

1 は種時に下記の薬剤を使用する。

・ダイアジノン粒剤5 ＜１Ｂ＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除こまつな、みずな、ケール、ひろしまな）
6kg／10a　全面土壌混和　は種時／1回】

カブラハバチ

防除方法

1 密植を避け、通風をよくする。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞
【非結球あぶらな科葉菜類（除チンゲンサイ）　4000倍　7日／1回】

ナメクジ類

留意事項

1 被害の周りには移動した痕跡として粘液が付着する。

2 スラゴは株元に散布し、植物体上にかからないように注意する。

3 ナメクリーン3は、ほ場全体に処理を行う場合、生長点付近に薬剤が入り込まないように2葉展開期までに散布を終えるようにする。また、収穫3日前までに使用する場合は、外周部からの侵入を防ぐことを目的に最前列の株元に散布する。その際は、茎葉の隙間に薬剤が入らないよう注意する。

防除方法

1 収穫後の作物残さは適切に処分する。

2 密植を避け、通風をよくする。

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・スラゴ ＜－＞
【ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等　ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所または株元に配置　1～5g／㎡　発生時／－】

・ナメクリーン3 ＜－＞【1～3kg／10a　株元散布　3日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。